

(平成15年12月19日)

「環境と経済の好循環委員会」

「21世紀 新しい観光のかたち
エコツーリズム」

(財)日本交通公社

理事・観光マーケティング部長

小林英俊

1. 日本における エコツアーリズムの現状 代表的な事例紹介

地域での取り組み

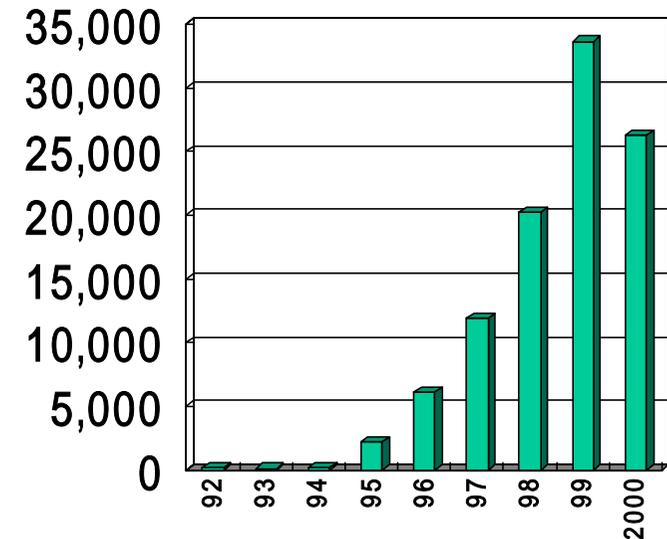
知床財団

自然地域の保護管理に従事するとともに、事業部門としてエコツアーガイド業を実施。年間に約160万人斜里町を訪れる観光客のうち、少しでも多くの方に知床の自然の真のすばらしさを伝えることを目指す。団体観光バスで訪れる観光客に対しても、ガイドツアーを積極的に実施。一般の観光客に対するエコ意識の醸成に努める。



設立経緯	<p><財団法人(1988年設立)> 斜里町が、知床全体の原生自然の保護と調和の実現、「しれとこ100平方メートル運動地」を維持管理を目的に設立した。</p> <p><エコツアーガイド部門(1992年設立)> 知床の自然を訪れる観光客を引率し、知床の自然のすばらしさを伝える事を通してこの地域にふさわしい観光を振興するために事業を開始。</p>
組織	ガイド部門:正職員1名、臨時職員15名 2002年10月
主要商品	1・2湖周遊、五湖一周ガイド、冬の動物ウォッチング、観光船ガイド、自然体験ツアー、フレペの滝ツアー、登山
実績(2000年度)	取扱い人数:約26,000人 売り上げ総額:約3,300万円

(参加者数)



民間での取り組み

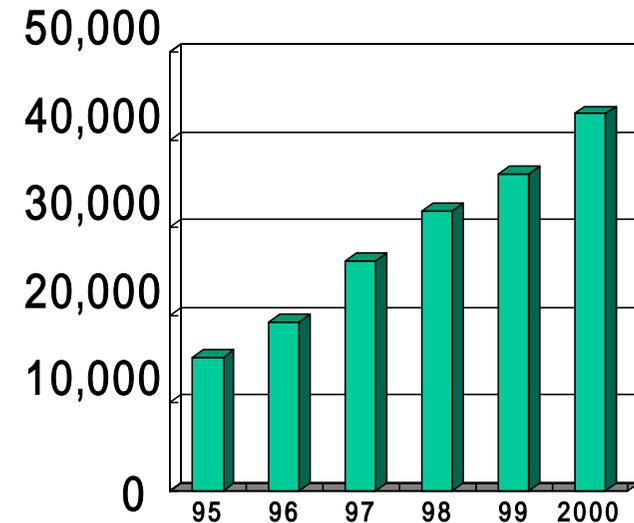
ホールアース自然学校

静岡県芝川町を拠点として、富士山麓や沖縄県などで自然体験プログラムを実施。主に、修学旅行生を対象とする。プログラムの実施により、これまで比較的空室が多かった6月や10月の平日に、河口湖畔の宿泊施設に修学旅行客を誘導。独自の試算では、プログラムの実施により地域の観光産業に対して、8～9億円の経済効果をもたらした。体験した修学旅行生からは多くの手紙が届くことから、プログラムの教育効果がうかがえる。



設立経緯	1982年、環境教育事業所「動物農場」設立し、家畜動物の飼育体験、自然との実体験や冒険的な活動始める。1983年、学校団体向け自然体験教室を開始。団体名称を「ホールアース自然学校」に改称。海外事業としてカムチャツカ半島等でのエコツアーも実施。沖縄校にて環境負担金制度を開始し、以降環境負担金制度は継続中で、2003年現在]総額400万円。
組織	社員30名、他25名
主要商品	主催事業：遊牧民キャンプ、富士山冒険学校、八丈島冒険学校、火山洞窟講座、熱気球教室、命を食べる、野生動物講座、ネイチャースキー、週末自然体験くりひろば(年間50回実施)等
実績(2001年度)	取扱い人数：約60,000人(学校団体・一般団体・受託事業を含める)

(参加学生数)



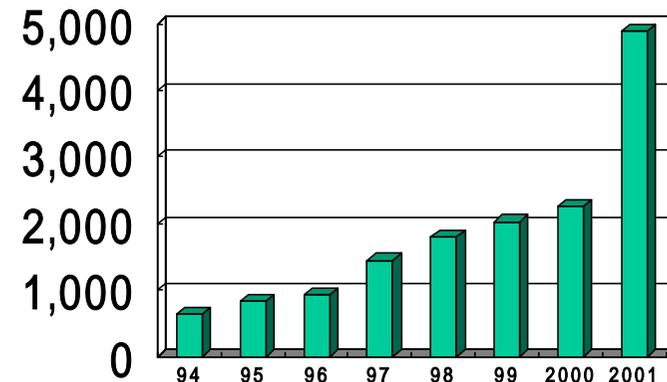
星野リゾート・ピッキオ

環境保全のためには、継続的なモニタリング調査が必要であるという信念のもとで、研究保護活動にも力を注ぐ。また、その研究成果をもとにした内容の濃いメッセージをエンターテイメント要素を含めて楽しく伝えることを目指す。体験を通して、子どもたちに理科の面白さを伝え、大人には自然の面白さと、本来の自然保護のあり方を伝える。



設立経緯	<p>エコツーリズムとエコロジカルな運営の二つの要素からなる、日本初の“エコリゾート”を稼働させることを最重要課題とするホテル事業のエコツーリズム・サービスの専門部隊として設立。</p> <p>1992年 野鳥研究室(前身) 1995年 ピッキオ</p>
組織	正職員14名、他11名 (2002年10月)
主要商品	ネイチャーウォッチング、バードウォッチング、エコちび森遊び塾、生き物じっくり観察会、夏休み親子の自由研究講座、ホタル観察会、ナイトハイク、コウモリウォッチング等
実績(2001年度)	<p>取扱い人数: 約13,300人</p> <p>売り上げ総額: 約5,000万円(受託調査事業含む)</p>

(取扱額)



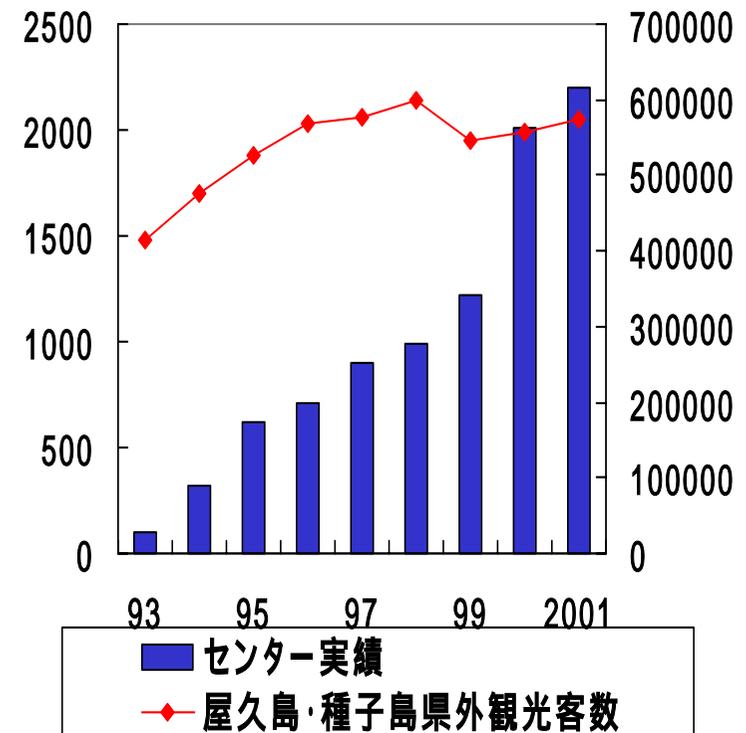
屋久島野外活動総合センター

ツアー参加費一人当たり15,000円という高額のエコツアーを実施。エコツアーガイドが提供する、情報提供およびエンターテイメントサービスの価値をマーケットで証明した。経済環境の影響を受ける屋久島地域への観光客数の変動によらず、設立以来、好調に取扱量を増やす。



設立経緯	設立者の3人が抱く屋久島の自然の素晴らしさを多くの人に伝えたいという意識が一致。それぞれの得意分野(海、山、川、森)をあわせることで、多様なプログラム展開ができることから共同でツアー会社を設立(1993年)。
組織	正社員4名、他4名 (2002年10月)
主要商品	森歩き(白谷雲水峡、屋久杉ランド、西部林道)、山登り(黒味岳、太忠岳、モッコウ岳)、沢登り、ダイビング、リバーカヤック、シーカヤック
実績(2001年度)	取扱い人数: 約2,200人 売り上げ総額: 約4,000万円

(参加者数)



飯田市の推進する地域エコツーリズム

農業・農村をベースに農山村地域の交流・半定住・定住人口増加、さらに波及効果を地域全体に広げていく「地域経営戦略」としてツーリズムを位置づけている。具体的には、地域資源を活かした本物志向の観光振興、環境に配慮した持続的農村の創造など。推進主体として南信州観光公社を設立。



(体験教育旅行参加者数)

ルーラル・パッケージ	体験教育旅行 南信州子ども体験村 農村体験ツアー ラーニングパッケージ どんぐりの森 小学校
援農事業	ワーキングホリデー
人材育成	南信州あぐり大学院
実績(2003年)	体験教育旅行 220団体 18,000名 200の体験プログラム 40,000名利用 ワーキングホリデー 289名 延べ1,316日

